

地域づくり実践塾 事業報告書

令和5年2月6日

ブロック名： 西諸県ブロック

ブロック代表者名： 壹岐 博彦

事業目的：

- フットパスを通じて地区住民との交流を深め、フットパスの普及促進を図る。
- 地域づくりに関わる個人やグループ、団体等とのネットワークを築くとともに、人材の発掘やそれぞれの活動（あるいは事業）の活性化につなげる。

名 称：第1回 地域づくり実践塾

実施日：令和4年11月13日 日曜日

実施時間：9:00～13:00

実施場所：小林市真方坂元区及び真方一区

対 象：坂元区住民、エビノフットパス協会役員等、
西諸県ブロックコーディネーター

参加人数：23人
(大人21、子ども2)

実施内容：

- 1 新コース（約5km）のフットパスウォーキング（所要時間：約2時間）
 - ガイド役を区の住民2名に依頼。資料を交えて小林城及び伊東塚に関する話題提供
 - その他にコース案内と安全管理を3名で行った。
- 2 フットパス終了後のふりかえり
 - 参加者全員によるアンケート記入
コースの評価を中心に今後の実践についての感想や意見等を整理することにした
 - ※尚、コロナウィルス感染防止のためお昼は弁当配布とした

写真資料：



所 感：

- 坂元区フットパスの2つ目となるコースは史跡にふれるルートを歩き、しかも隣りの、普段はなかなか足を運ぶことのない地区にまたがることもあってか、区の住民の方たちも興味津々の様子だった。今は見る影もなくなった商店街があった通りでは、昔の記憶をたどりながら住民同士で話し込む姿も見られた。
- 坂元区内から住民が18名参加。新コースを待ち望んでおられた住民からは喜ぶ声があがった。最初にできたコースの時のように、多くの区の住民に歩いてほしいとの感想も聞かれ、コースについて好評価の印象だった。

- 城跡や西郷が歩いた道などの史跡をはじめ、昭和の初めごろに栄えていた街並みに触れる等のコースについて、住民の多くが魅力やおもしろさを感じられていた。
- また、普段は区の住民同士で会話することがないため、フットパスを通じて話げできたことを喜ぶ声もあった。
- コースの魅力伝えるためのガイド（2～3名要請）と安全面を考慮し、今回のように最低3名のスタッフの必要性を感じた。区長とは従来通りの区の行事として行う形と、外部からの参加者を含めたイベント的な実施も検討することになった。

【今後の予定として】

- 第2回実践塾として地域づくりのフォーラムを開催予定
期日：令和5年3月4日（土）か5日（日）のいずれか
対象：フットパス関係者及び各地区の住民、地域づくりに関心のある方々、行政関係者等
場所：小林市内
内容（概要）：県内の地域づくりの実践者による基調講演
西諸県圏域で様々な地域おこしのしかけを行う関係団体等による実践紹介
ねらいとして、
 - ・ 地域の魅力を見いだす（活かし方を含め）ための視点や具体的なノウハウを学ぶ
 - ・ 情報交換を通じてネットワークをつくるきっかけ（場づくり）とする等を考えている。
- 第3回実践塾として西小林地区のウォーキングコースを関係者（区長ほか区の行事担当者等）と関心のある方を交えて歩く計画を検討中
現在、区長と計画実施に向け、話し合いを行っている。